

大阪府立北摂つばさ高等学校 学校運営協議会 令和7年度第3回 会議録

日 程：令和8年2月6日（金） 15時30分～17時20分（協議会）

場 所：本校校長室

委員出席者（五十音順、敬称略）

長田佳久委員、坂ロー美委員、田中宏和委員、増田紀子委員

事務局出席者

川口（校長）、下田（事務長）、深田（教頭）、佐藤（首席）、渡（首席）

<協議事項> （○委員 ●事務局）

1. 首席・分掌・学年からの総括報告について

授業改善・生徒支援

●ポジティブ行動支援（PBS）や授業のユニバーサルデザイン化（UDL）を軸に授業改善を実施した。第1回授業見学ではPBSのポイントをまとめたシートを配付し、共有化。第2回授業見学ではUDL視点を取り入れたセルフチェックシートを導入した。

生徒数減少に伴う教員数の減少がある中で、持続可能な支援体制を構築することが次年度の課題である。

○PBSやUDLが中学校教育と連続性があり、進学後の高校で中学校と同じ取り組みをして支えられていることに感謝している。

生徒部（生徒指導、生徒会、国際交流、行事）

●今年度より遅刻過多の生徒に早朝登校指導を実施した。規定の早朝登校回数に達していない生徒を対象にテスト前学習会を実施したが、参加率が低く、次年度の課題となっている。

交通安全指導では生徒会を中心に地域イベントや警察と連携し活動した。

国際交流は韓国のプンム高校とオンライン交流を行った。タイを含め次年度も継続的に国際交流を行う。

生徒手帳を電子化する。

体育大会と文化発表会について公開対象を卒業生も可とした。文化発表会ではバーコード決済を導入した。

ダンス部が冬の全国大会で審査員特別賞を獲得した。

進路指導部

●3年生の現時点での進路決定率は約90%。就職希望者は1次試験で20名が合格し、進路変更で就職希望の生徒に対処継続中。

(○委員 ●事務局)

今年度より企業来校予約フォームを作り、来校を整理し対応できるようにしている。放課後に学習会を行い一定数の生徒が参加している。その影響もあり外部模試受験者が昨年度は0人であったが今年20人へ増加した。

保健部

- 水害を想定した垂直避難を実施した。校内美化の一環としてトイレ巡視と美化ポスターを刷新した。

企画部

- Instagramの更新を強化し、前年比200%以上の更新を行った。1月の学校説明会では申込数が大幅に増加した。中学校訪問は11月の秋実施から、夏休み中に変更し、学校説明会への周知時期を早めた。

学年・共生推進教室

- 1年生は夏休み以降に遅刻欠席が増加した。遅刻指導の取組みとしてバーコードリーダーを活用したポイント制度を実施し、ポイント数に応じて放課後の学年行事への参加権を与える取組みを行い、登校意欲を高める指導をした。2年生は授業間遅刻者への個別指導を強化した。特定の生徒に問題行動が多かったが、学年生徒指導主担を中心に粘り強く指導した。また、廊下巡回等で生徒との接点を増やしコミュニケーションを積極的に図った。3年生は1年間通して、レッツ勉強デーを2年次から引き続き継続し、提出物や課題作成の支援を行った。2年次より対象者が減少した。遅刻生徒数が大幅に増加し、指導方法について課題が残った。共生推進教室生徒は全員進路が決定している。

2. 学校教育自己診断アンケートについて

- 今年度の変更点について、新たに7項目を追加した。回答の選択肢から「判断できない」を削除し4択に変更。一部、修正ミスで5択のままとなっているため、その項目については、そのまま集計している。回収率について保護者回収率が低いため、次年度は連絡ツールを使って改善をめざす。アンケート結果の傾向として全体的にはポイントが微減。授業のICT活用については定着が見られる。「授業が分かりやすい」という質問に関して保護者と生徒の回答に約30%の乖離が見られる。英検や情報関連の資格等の取得への意識が向上している。

3. 令和7年度 学校評価（案）について

- 主な課題のポイントとして、生徒との関係性に係る項目について「先生が話を聞いてくれる」80%から79%に微減。これについては教員の物理的時間不足も影響している可能性がある。「学校が楽しい」76%であり、生徒の自己肯定感の育成までつながっていないところが課題。行事や部活動も含めたうえで学校に行くのが楽しいという環境を作っていくことが

必要。

遅刻欠席者については、欠席は昨年度並みになると予想されるが、担任を中心に各学年が声掛けを行っており、長欠者は減ってきている。一方で遅刻者については、遅れてでも登校するように指導していたり、その指導の結果、逆に遅刻してもいいんだという意識を持たせてしまったということもあり、指導体制について見直す必要があると考えている。部活動に関しては1年生の途中退部が4分の1と多いため、まずは部活に入ってもらふことと、継続してもらふことを頑張っていきたい。

小中連携や地域連携に関しては、目標回数が10回という指標に関して設定数を見直してもよいと考えている。

人権事象・いじめ対応に関して即時に対応する必要がある事象があった。各学年迅速に動いて学年集会を開いて指導した。本事象をきっかけにしっかりと学べる機会となり、今後ともこの部分は引き締めて指導していきたい。

4. 令和8年度学校経営計画中期的目標(案)について

- めざす学校像と中期目標の体系を整理し文言を統一した。今後は先行きの見えない社会の中で「将来を生き抜く力」を追加した。人文ステップアップコースを閉じることに伴った、記述修正をしている。卒業率目標は位置づけを変更し、人権・支援体制の関連項目へ移動させる。今後の生徒数減少の中で中退防止は最重要指標であること。また、多様な生徒へ対応として外部人材であるSSWの時間確保などを強化していきたい。
- 地域ボランティアの活動が以前より縮小傾向に見えるため、学校としての位置づけを強化してはどうか。
- 昔は地域とのつながりを知っていた先生が多くいたが、そのつながりや繋ぎが上手く行われていなかった。そのため、今の活動が分掌やコースなどで決まったものとなっていないく、一部の先生任せに良くも悪くもなっている。今後は一教員が個人のネットワークで行っていくのではなく、しっかりと形を作って、活動計画や年間計画に盛り込んでいきたい。
- 高校の部活動の外部委託などはどうなっているのか。
- 高校でも部活動指導員の制度があり、本校でも一部部活動で導入している。部活動のペアリング校などもある。本校の一部部活動では人数が少ないため、他校と合同チームを組んで取り組んでいる部活動もある。
- 府教委からのガイドサポートとはどういうものがあるのか。
- 主にSCとSSWになる。今年度からはSSWの制度が変更になったため、本校に派遣されるSSWの時間数が減った。そのため学校教員が生徒の居住地の福祉とつなぐなど行っている。毎年、教員の対応が手厚くなってきているものの、次年度はSSWの回数を多くしていきたい。

(○委員 ●事務局)

- SSWの回数が増えることで改善が見込めるのか。
- 中学校でもSSWを市が配置してくれており、家庭の状況を把握したうえで様々な関係機関につないでくれるセーフティネットで、子どもたちを救ってくれる。高校で少ないというのは驚いている。
- SSWの制度が変更になったため、本校は周辺校という扱いになっている。そのため回数が昨年度より減っている。キャンセルが出た際などは積極的に活用したい。また、専門家に授業を見てもらい生徒の背景にあるものを把握し、教員の対応力などを見てもらえる点でもSSWはとても大事だと考えている。
- 地域交流では、地元の小中高生どうしが交流してほしいと思っている。そのため、北摂つばさに相談させてもらっていたりしているので、今後も持続継続していきたいと考えている。高校生が地域行事に入ってくれれば、活力が違うので今後も地域活動に協力してほしい。
- いじめの対応については、校内で明らかにして生徒に発信する姿勢が素晴らしい。
- 法律に則りしっかりと対応している。兆候があった際に校内で情報を共有し、組織的に対応している。本校以外にも同様にいじめの対応をしている。

〈その他、校長が必要と認める事項について〉

〈授業その他の教育活動に係る保護者からの調査審議に関する事項〉

特になし

〈閉会〉 校長謝辞

今年度の学校運営協議会にて、たくさんのご意見いただきありがとうございました。ご意見いただきました件につきましては、次年度以降につなげていければと思っております。卒業式は2月27日、入学式は4月8日に行います。来年度は20年めの生徒を迎えることとなります。多くの生徒に来てもらいたいと思っております。よろしければ今回の卒業式入学式にご参席いただけたらと思っております。本日はありがとうございました。